



第4章

地域別構想

第4章では、全体構想を踏まえた地域の現状と課題や地域づくりの方針についてまとめています。

第1節 地域別構想の構成	136
第2節 地域別方針	137
1 上越地域	138
(1) 直江津周辺地域	138
(2) 春日山周辺地域	150
(3) 高田周辺地域	158
(4) 上越妙高駅周辺地域	168
(5) 上越西部中山間地域	176
(6) 上越東部田園地域	184
(7) 大潟・頸城(西部)地域	192
2 柿崎地域	200
3 中郷地域	208
4 頸城(東部)・吉川・三和地域	216
5 安塚・浦川原・大島地域	224
6 牧・板倉・清里地域	234
7 名立地域	242

第4章 地域別構想

地域別構想は、全体構想に示した方針を受け、地域の現状と課題を踏まえた地域づくりの方針を示すものです。

第1節 地域別構想の構成

地域別構想では、地域の概要、現状と課題を踏まえて本地域が担う役割、地域づくりの方針を示します。

第1章 序論

第2章 上越市の現状と課題

第3章 全体構想

- 第1節 まちづくりの将来像
- 第2節 まちづくりの基本方針
- 第3節 まちづくりの分野別方針

第4章 地域別構想

- 第1節 地域別構想の構成
- 第2節 地域別方針

上越市の現状と課題について、地域毎により具体的に整理します

上越市が目指すまちづくりの実現に向けて、当該地域が担う役割を具体的に示します

まちづくりの分野別方針について地域の特徴ごとに具体的に示します



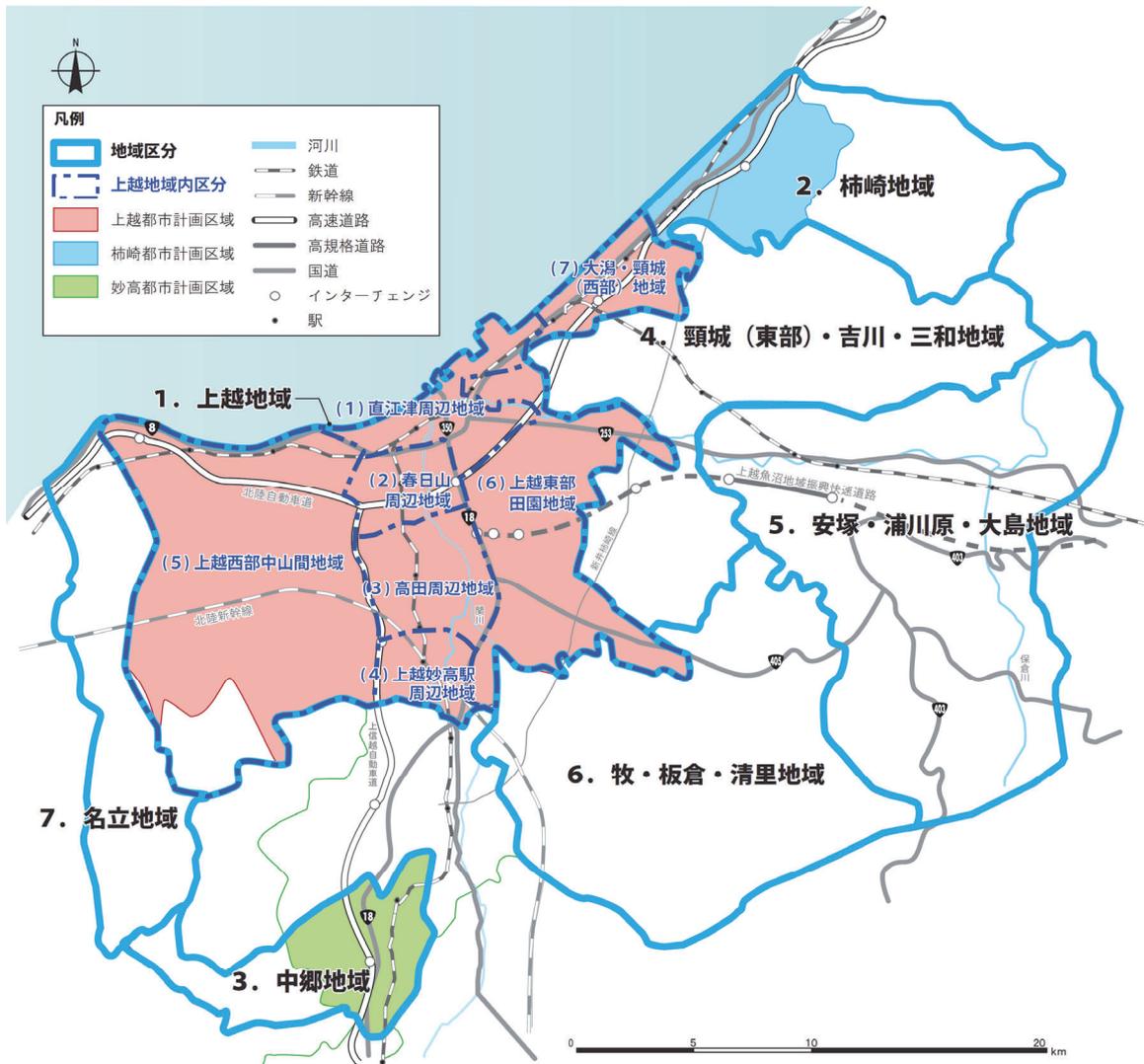
全体構想と地域別構想の関係



第2節 地域別方針

地域の区分は、都市計画区域*の指定の有無を基本とし、地形や土地利用の状況などを踏まえて7つの地域に区分しています。

このうち、上越地域については、主要な鉄道駅周辺の市街地のまとまりを基本として更に7つの地域に区分し、地域の特徴を踏まえた地域づくりの方針を示します。



地域区分

線引き都市計画区域

1. 上越地域

- (1)直江津周辺地域
- (2)春日山周辺地域
- (3)高田周辺地域
- (4)上越妙高駅周辺地域
- (5)上越西部中山間地域
- (6)上越東部田園地域
- (7)大潟・頸城(西部)地域

非線引き都市計画区域

2. 柿崎地域

3. 中郷地域

都市計画区域外

- 4. 頸城(東部)・吉川・三和地域
- 5. 安塚・浦川原・大島地域
- 6. 牧・板倉・清里地域
- 7. 名立地域

1 上越地域

(1) 直江津周辺地域

1) 地域の概要

①位置及び都市計画上の位置づけ

- ・上越地域の直江津周辺地域は、上越都市計画区域の北部に位置し、北側が日本海に面し、また西側には中山間地域が広がる地域です。地域の中心部で一級河川*の関川、保倉川が合流し、その周辺に広がる平坦地に市街地が形成されている地域です。
- ・本地域は、都市計画区域*となっており、直江津港、直江津駅、五智公園などを含む地域の大部分が市街化区域*に、森林が広がる地域西側の一部及び農地が広がる地域南側の一部が市街化調整区域*になっています。

②まちの変遷

- ・本地域は、直江津港が奈良時代から越後国府の重要な港としてにぎわい、江戸時代には、日本海を航行する北前船*の寄港地として栄えました。また明治時代以降には北陸本線及び信越本線の整備が進み、両線が結節する直江津駅が整備され、本地域は鉄道・海路を中心に交通の要衝となるとともに、商業・工業の集積地として発展が進みました。
- ・また、重要港湾*である直江津港は、西防波堤の延長や新たなふ頭の整備などが行われてきました。荒浜ふ頭では、LNG*（液化天然ガス）火力発電所（平成 26 年 5 月 15 日全機運転開始）や LNG*基地（平成 25 年 12 月 1 日供用開始）が立地しており、平成 23 年 11 月に新潟港とともに LNG*部門の日本海側拠点港*に選定されています。

③交通ネットワーク

- ・本地域には、北陸自動車道、一般国道 8 号が東西に、また一般国道 350 号が南北に通っており、柏崎市方面、糸魚川市方面、妙高市・長野県方面などとの交流・連携を支える広域ネットワークとして重要な路線となっています。
- ・本地域と周辺地域をつなぐ主な道路として、南側に一般国道 8 号、中心部に一般県道大潟上越線が東西に通っており、また直江津駅周辺の市街地から放射方向に一般県道直江津停車場線、一般国道 350 号、一般県道三ツ屋中央線が通っています。これらの道路は、本地域と市内各地域を連絡し、商業、業務、産業の振興や日常生活などを支える重要な路線となっています。
- ・本地域の南側には、北陸自動車道上越インターチェンジが配置され、本地域と市内外をつなぐ結節点として機能しています。
- ・本地域には、JR 信越本線、えちごトキめき鉄道妙高はねうまライン・日本海ひすいラインが連絡する直江津駅があり、妙高市・長野県方面や糸魚川市・富山県方面、長岡市・新潟市方面を連絡しています。また直江津駅には北越急行ほくほく線が乗り入れ、



直江津駅と南魚沼市・湯沢町方面を連絡しています。

- ・ 本地域には、路線バスが運行しており、高田方面、大潟区・柿崎区方面や名立区方面を連絡しているほか、地域内を循環しています。
- ・ また、佐渡汽船小木直江津航路が運航されており、直江津港と佐渡市を連絡しています。
- ・ このほか、直江津港では韓国・中国への外貿定期コンテナ航路が定期運航されているなど、本地域は上越市と国内外各地をつなぐ陸路・海路の要衝となっています。

④地域資源

- ・ 直江津周辺地域は、一級河川関川が日本海にそそぐ河口に面し、直江津駅周辺は交通の要衝として古くから栄えた歴史文化のまちであり、親鸞聖人上陸の地と言われる居多ヶ浜、上杉謙信が再興した五智国分寺などの様々な名所旧跡や五智歴史の里会館などがあります。
- ・ 地域西側には、久比岐県立自然公園（一部）及び五智公園自然環境保全地域が指定されており、豊かな自然資源があります。
- ・ 直江津港は、上越市と佐渡市を結ぶ小木直江津航路が運航されており、広域観光の玄関口となっています。また、韓国・中国への外貿定期コンテナ航路を有する重要港湾*であるとともに、LNG*火力発電所や LNG*基地が操業するなどエネルギー拠点でもあります。上越沖日本海のメタンハイドレート*の存在は、直江津港のエネルギー拠点としての重要性を一層高めることが期待されています。
- ・ また、化学や金属関係の大手製造業が立地し、関連企業を含め、市内経済を支えています。
- ・ 本地域には、なおえつ海水浴場や水族博物館などの観光資源があります。

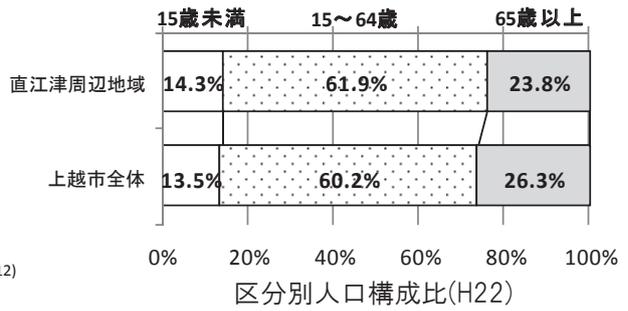


中部電力株式会社提供

直江津港周辺
(中部電力株式会社提供)



水族博物館



直江津周辺地域に関するデータ

- 総面積：約 32 km² (約 3%)
- 総人口：35,235 人 (約 17%)
- 世帯数：13,537 世帯 (約 19%)
- 15歳未満の人口比率：約 14%
- 高齢化率：約 24%
- 人口増減率 (H22/H12)：約 1%増

出典：平成 22 年国勢調査に基づき集計
 ※()内は市全体に占める割合

2) 地域の現状と課題

- 本地域においては、人口減少及び空き店舗・空き家の発生による市街地の低密度化に対して、商業、工業、観光、文化などの多様な都市機能*が集積する地の利をいかすとともに、都市機能*が利用しやすい魅力的な居住の場を提供するなど、暮らしやすい居住環境及び都市機能*の維持・形成に取り組むことが必要です。
- 北陸自動車道や一般国道 8 号などの幹線道路*、信越本線や妙高はねうまライン・日本海ひすいラインなどの鉄道、直江津港を起点とする航路などが結節する交通の要衝として、地域の日常生活や産業活動を支え、本地域と他地域との交流・移動を支えることが必要です。
- 日本海に面し、一級河川*の関川、保倉川の河口付近に市街地が広がる本地域では、洪水や津波に伴う浸水被害、沿岸部における海岸浸食などの課題に対応し、安全・安心なまちづくりに取り組むことが必要です。

① 土地利用・拠点の現状と課題

- ・ 直江津駅周辺は古くから交通の要衝として栄え、ホテルや飲食店、図書館、駅前広場などの都市機能*が集積し、その周辺部に住宅地や工業集積地、流通業務地、港湾業務地が広がっています。
- ・ 直江津駅周辺の既成市街地*では人口減少や空き店舗・空き家の発生などによる市街地の低密度化が進んでいることから、今後は、商業、工業、観光、文化などの多様な都市機能*を有する地の利をいかしながら、暮らしやすい居住環境及び都市機能*の維持・形成を図るための土地利用を進める必要があります。
- ・ 直江津港周辺には、LNG*火力発電所や LNG*基地、黒井工業団地、下五貫野企業団地などがあります。上越市の地域経済をけん引し、また地域雇用の場となる工業分野の活性化を図るため、直江津港及び一級河川保倉川周辺の既存の工業系土地利用の維持に取り組むことが必要です。
- ・ 本地域の市街地は、直江津駅周辺から一般国道 8 号沿道へと徐々に拡大を続けてきました。今後は今の都市機能*や市街地の規模を維持するため、暮らしやすい市街地・住環境を保全し、市街地の無秩序な拡大を抑制することが必要です。
- ・ 本地域の市街化調整区域*には、主に農地や森林が広がっています。自然環境保全や農地保全を図るため、市街化調整区域*における適正な土地利用が必要です。
- ・ 本地域には、五智公園、居多ヶ浜、五智国分寺、五智歴史の里会館、なおえつ海水浴場などの観光・文化資源があります。また、久比岐県立自然公園及び五智公園自然環境保全地域が指定されています。これらをいかした交流・連携の更なる充実を図るため、地域住民が身近に親しむことができる自然環境の保全や観光・文化資源の保全・活用が引き続き必要です。
- ・ 直江津駅周辺は、人口減少が進み、空き店舗・空き家の発生がみられます。今後、交通の利便性が高い地の利をいかし、都市拠点の維持・形成のため、直江津駅周辺における都市機能*の維持・形成に取り組むことが必要です。

②道路・交通ネットワークの現状と課題

- ・ 本地域では、既成市街地*などにおいて安全な道路空間の確保が必要な箇所や未整備の都市計画道路*があります。
- ・ 今後、本地域における地域住民の日常生活や産業活動を支えるため、また本地域と各拠点の交流・移動を支えるため、国道・県道及び北陸自動車道などの安全・安心な道路ネットワークの確保に取り組むことが必要です。
- ・ また、地域内における日常生活を支えるため、地域の実情に配慮して、安全・安心な生活道路*の確保が必要です。
- ・ 地域公共交通*の利用者は減少し、その維持・存続が年々厳しくなっています。今後は、高齢化の進行により地域公共交通*を必要とする市民が増加すると推察されることから、日常生活を支える公共交通の維持・確保が重要となります。
- ・ 特に、都市機能*が集積している本地域においては、市街地への移動実態、ニーズに合った公共交通体系の構築が必要です。
- ・ あわせて、北陸新幹線開業により、今後は来訪者の増加を見据えて、北陸新幹線の上越妙高駅と市内各地を結ぶ公共交通の整備が必要です。

③水族博物館の現状と課題

- ・ 上越市における水族館の歴史は、昭和9年に設置されてから80年もの歴史があります。また、水族博物館としてオープンしてから30年が経過しました。現在、水族博物館の施設は更新時期を迎えており、新しい施設整備が必要となっています。

④安全・安心なまちづくりの現状と課題

- ・ 本地域の市街地には、都市計画下水道区域が指定されていますが、未整備の箇所が残っています。今後、良好な住環境の形成を推進するため、黒井地区などの地域北東側などにおける公共下水道の整備・普及を進めることが必要です。
- ・ 一級河川*の関川、保倉川、戸野目川などについては、河川整備や維持管理などの治水対策が引き続き必要です。
- ・ 津波ハザードマップ*において、沿岸部の一部が津波発生時の避難対象地域に指定されています。そのため、避難対策について行政と地域住民が一体となった検討が必要です。
- ・ 災害に強いまちづくりを進めるため、引き続き安全・安心に暮らせる住まいの形成や、災害時の助け合い・避難所の運営を行う自主防災組織*の編成など、防災・減災対策を検討する必要があります。
- ・ 空き家については、適正な維持管理が行われず、そのまま放置すれば倒壊など保安上危険となったり、衛生上有害となる恐れが懸念されるため、その対策が必要です。
- ・ 地域西側の中山間地域には、土砂災害の危険のある区域が存在することから、行政と地域住民が連携した、土砂災害防止や被害軽減に向けた取組が必要です。



- ・ 本地域の沿岸部にあるなおえつ海水浴場などの海岸において海岸浸食が進んでいます。そのため、海岸浸食の進行などを軽減するための対策が必要です。

⑤ 都市環境の保全に向けた現状と課題

- ・ 近年、従来の工場など産業活動に起因する苦情に加えて、住居系の地域で発生する騒音などの苦情や飲食店やサービス業の悪臭苦情など、公害苦情が多様化しています。そのため、生活環境の維持・向上に引き続き取り組む必要があります。

3) 本地域が担う役割

『商業、工業、観光、文化、居住、交通などの多様な機能を有する地域』としての役割を担います。

4) 地域づくりの方針

- 商業、工業、観光、文化、居住などの多様な機能を有する地域としての役割を果たすため、めりはりのある土地利用や都市拠点の形成、新水族博物館の整備に合わせた公園などの整備により、公共施設や商業施設、工業団地、観光・文化施設、居住などの機能の維持・集積を目指します。
- 上越市における交通の要衝としての役割を引き続き担うため、幹線道路*の整備促進や必要な生活道路*の整備、公共交通ネットワークの確保などにより、交通結節点としての機能の維持・集積を目指します。
- 河川の適正な維持管理、津波避難誘導看板の設置やハザードマップ*などによる周知活動、海岸保全施設の整備促進、自主防災組織*の支援などの防災・減災対策に取り組み、安全・安心な暮らしを支える環境の維持・確保を目指します。

① めりはりのある土地利用の推進

- ・ 住宅を主とする低層低密な住宅地では、閑静でゆとりある良好な住環境の形成に向けた土地利用を推進します。
- ・ 特に、歴史的資源が集積する地区においては、歴史的な雰囲気と周辺環境との調和や良好な住環境の形成に向けた土地利用を目指します。
- ・ 幹線道路*の沿道では、日常生活を支える店舗や教育施設、交流施設などが身近にある暮らしやすい住環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- ・ 一般国道8号などの主要幹線道路*の沿道では、住環境に配慮した沿道の商業・業務施設などの立地を適正に図れるよう、身近な便利施設や良好な住環境が共存できる市街地環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- ・ 直江津駅周辺では、中高層住宅の誘導やオープンスペース*の確保などにより、本地域の様々な都市機能*をいかした利便性の高い住宅地の形成に向けた土地利用を推進します。
- ・ 工業集積地・港湾業務地においては、交通の要衝に位置する充実した環境をいかして、産業維持の観点から、企業誘致など産業分野の施策との連携により適正な土地利用を進めるとともに、社会経済情勢などの変化を踏まえ、地域のニーズに合った適正な土地利用を検討します。
- ・ 特に、直江津港周辺では、エネルギー港湾*としての特徴をいかしつつ、物流拠点としての利便性を高め、物流やエネルギー関連企業、製造業などの集積を促進します。

- ・流通業務地においては、北陸自動車道、一般国道8号、直江津港、直江津駅などに近接する充実した環境をいかし、流通業務系施設の立地を誘導するため、地域のニーズを踏まえて土地利用の面から適切に支援します。
- ・流通業務地では、市街地の無秩序な拡大を抑制するため、大規模商業施設の立地制限に関する土地利用規制の維持に取り組みます。
- ・直江津駅周辺の商業集積地では、上越地域全体の商業圏域*を支える集客性の高い商業施設や観光・交流施設などの集積を誘導します。
- ・生活利便商業集積地では、隣接する住宅地の生活環境との調和を図りつつ、日常生活に必要な小規模な日用品店舗などの立地を誘導します。
- ・市街地においては、市民が安心して快適に生活できる住環境の形成や、市街地内の低未利用地*の土地利用の促進を図るため、今後の社会経済情勢の変化や地域のニーズに応じた適正な土地利用を検討します。
- ・市街化調整区域*においては、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を目指します。また、都市計画制度の活用を図り、集落の活力の維持・向上に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。
- ・地域住民が身近に親しむことができる様々な自然資源や観光・文化資源の活用などにより、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。

②拠点の形成

- ・生活の利便性や回遊性を向上させるため、既存の都市機能*の適正な維持・更新に加え、商業、交流施設などの多様な機能の立地を図ります。
- ・歴史を感じさせるまちなみや日本海を一望できる景観、整備の進む新水族博物館などの新たな地域資源の活用を図り、市内外との人の交流を促進します。
- ・本地域の多様な機能を維持するため、関係分野との連携により空き店舗の利用促進や地域活動の支援などのソフト*政策を展開し、商業活性化や居住環境の向上を支援します。
- ・本地域及び上越市全体の生活利便性向上と地域活性化を図るため、本地域と各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。

③道路ネットワークの確保

- ・本地域と各地域を結ぶ国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。
- ・地域内の生活道路*では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。
- ・直江津港から関東、北陸、長野方面に連絡する広域的な環状道路の形成や直江津港、新潟県南部産業団地などへの円滑な物流を確保するため、都市計画道路黒井藤野新田線の整備促進に引き続き努めます。

- ・長期にわたって未着手となっている都市計画道路*は、路線の必要性や事業の実現性を検証し、適正な見直しを検討します。

④公共交通ネットワークの確保

- ・将来にわたって市民の日常生活を支え、市内外の人の交流を促進するため、拠点間を結ぶ路線バスの維持や重複する交通網の再編成などにより、市内外の人たちが利用しやすい鉄道やバスの地域公共交通網の形成を図り、維持していきます。
- ・鉄道については、利用者のニーズ（移動需要）を踏まえた運行本数やダイヤ設定などを働きかけます。直江津駅では、妙高はねうまラインと日本海ひすいライン、信越本線及びほくほく線への乗り換えがスムーズに行えるよう、ダイヤの設定や発着ホームへの配慮を働きかけます。
- ・上越妙高駅と市内各地を結ぶため、信越本線、ほくほく線への直通運転及び黒井駅停車の維持・増便や、上越妙高駅と直江津港を結ぶ公共交通の確保を働きかけます。

⑤新水族博物館の整備に合わせた公園、駐車場などの整備

- ・市内外との人の交流を促進する機能の充実を図るため、新水族博物館の整備を推進するとともに、公園、駐車場など周辺施設の整備を検討します。

⑥安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

- ・生活環境の改善や河川の水質汚濁防止を図るため、また集中豪雨などに伴う浸水被害を軽減するため、下水道（汚水・雨水）の整備を推進します。
- ・国・県により管理される一級河川*の関川、保倉川、戸野目川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川*や雨水幹線*などについても適正な維持管理を推進します。
- ・津波から人命を守る観点から、津波発生時の避難対象地域においては、避難場所表示や津波避難誘導看板の設置、ハザードマップ*などによる周知活動を図ります。
- ・木造建物の耐震化、克雪住宅*の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路*の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織*の結成及び活動を支援します。
- ・放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。
- ・土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。
- ・沿岸部の海岸浸食への対策として、海浜地の海岸保全施設の整備を促進します。

⑦都市環境の保全

- ・産業活動に起因する騒音などの公害を防止し、生活環境の維持・向上を図るため、周



辺と調和した適正な土地利用への見直しを図るなど、必要に応じて都市計画の面から支援します。

- ・また、生活環境の維持・向上、市街地や幹線道路沿道などでの景観の形成、防災面における安全性の向上、二酸化炭素の吸収などの環境負荷低減などのため、関係分野と連携しながら、公園緑地や街路樹などの緑地空間の保全・維持管理を推進します。
- ・海岸部特有の飛砂による被害の防止に向けて、関係分野と連携しながら松林などの飛砂防備保安林の保全・維持管理を推進します。

第4章

地域別構想

1 上越地域

(1) 直江津周辺地域



第4章

地域別構想

1 上越地域

(1) 直江津周辺地域

(2) 春日山周辺地域

1) 地域の概要

①位置及び都市計画上の位置づけ

- ・上越地域の春日山周辺地域は、上越都市計画区域のほぼ中心部に位置し、本地域の中心部を南北方向に流れる一級河川関川の両岸に広がる平坦地に市街地が形成されている地域です。
- ・本地域は都市計画区域*となっており、一般国道 18 号上新バイパス、一般県道上越脇野田新井線（通称：上越大通り）、妙高はねうまライン、主要地方道上越新井線（通称：山麓線）の沿道を中心に市街化区域*が広がり、その外縁部の一部が市街化調整区域*になっています。

②まちの変遷

- ・本地域は、春日神社から由来する門前町として栄えました。近代では、合併前上越市の高田地区と直江津地区の中間に位置する交通の利便性が優れる地域として、また上越市役所などの行政機能が集積する地域として、昭和 40 年代に入って市街化が進みました。

③交通ネットワーク

- ・本地域には、北陸自動車道、一般国道 8 号が東西に、また地域東側に一般国道 18 号上新バイパス、西側に上信越自動車道が南北に通っており、柏崎市方面、糸魚川市方面や妙高市・長野県方面などとの交流・連携を支える広域ネットワークとして重要な路線となっています。
- ・本地域と周辺地域をつなぐ主な道路として、一般国道 18 号上新バイパス、一般県道上越脇野田新井線（通称：上越大通り）、主要地方道上越新井線（通称：山麓線）が南北に通っています。また、主要地方道上越安塚浦川原線（通称：謙信公通り）が東西に通っています。これらの道路は、本地域と市内各地域を連絡するなど、日常生活や広域交流などを支える重要な路線となっています。なお、主要地方道上越新井線（通称：山麓線）は、平成 26 年 10 月 15 日に中田原から妙高市飛田までの区間（約 3km）で開通し、一般国道 8 号加賀交差点から一般国道 18 号上新バイパスの乙吉交差点までの約 13km が結ばれました。
- ・本地域の東側には、北陸自動車道上越インターチェンジが配置され、本地域と市内外をつなぐ結節点として機能しています。
- ・本地域には、えちごトキめき鉄道妙高はねうまラインの春日山駅があり、直江津方面と妙高市・長野県方面を連絡しています。
- ・本地域には、南北方向に主要な路線バスが運行しており、高田方面と直江津方面を連絡しているほか、春日山駅周辺と新道地区を結ぶ路線バスが運行しています。



④地域資源

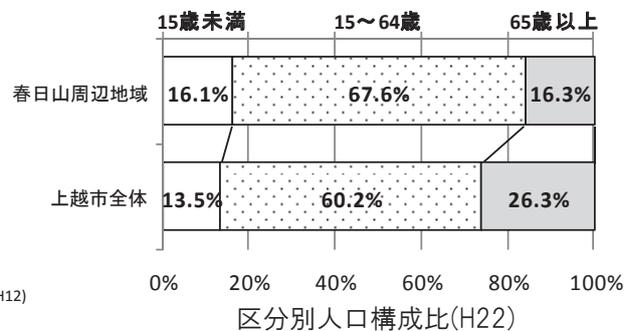
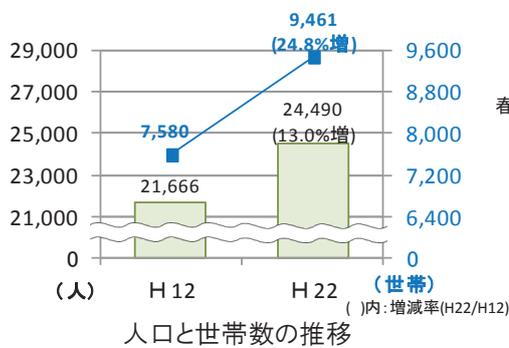
- ・ 本地域の中心に位置する春日山駅周辺には、上越市役所、上越文化会館、総合体育館・勤労身体障害者体育館などの公共施設があります。
- ・ 一級河川関川より東側には、北陸自動車道上越インターチェンジがあり、その周辺に商業施設や流通業務団地、総合病院などがあります。
- ・ 本地域の西側には、春日山が位置し、国の指定史跡である春日山城跡、春日神社、林泉寺、春日山神社、埋蔵文化財センター、春日山城跡ものがたり館などの観光・文化資源が集積しています。
- ・ 本地域には、リージョンプラザ上越、教育プラザ、農業研修センター芙蓉荘など、研修や集会、スポーツ、娯楽などを通じて様々な人や団体が交流する場所となる施設があります。



上越インターチェンジ周辺



春日山



春日山周辺地域に関するデータ

- 総面積：約 13 km² (約 1%)
- 総人口：24,490 人 (約 12%)
- 世帯数：9,461 世帯 (約 13%)
- 15歳未満の人口比率：約 16%
- 高齢化率：約 16%
- 人口増減率 (H22/H12)：約 13%増

出典：平成 22 年国勢調査に基づき集計
※()内は市全体に占める割合

2) 地域の現状と課題

- 本地域においては、上越市役所、上越文化会館、リージョンプラザ上越などの公共施設や交流施設が集積する地の利をいかすとともに、都市機能*が利用しやすい魅力的な居住の場を提供するなど、暮らしやすい環境及び都市機能*の維持・形成に取り組む必要があります。
- 一級河川関川より東側では、広域ネットワーク及び北陸自動車道上越インターチェンジに近接する充実した環境をいかした土地利用を進める必要があります。
- 春日山、春日山城跡、春日神社、林泉寺、春日山神社、埋蔵文化財センター、春日山城跡ものがり館などがある春日山一帯では、地域住民が身近に親しむことができる自然資源や歴史的な観光・文化資源などをいかして、市内外との交流・連携の更なる充実に取り組む必要があります。

① 土地利用・拠点の現状と課題

- ・ 春日山駅周辺は、上越市役所、上越文化会館、総合体育館・勤労身体障害者体育館などの公共施設が集積し、その周辺部にリージョンプラザ上越、教育プラザ、農業研修センター芙蓉荘などの交流施設や商業施設、住宅地、流通業務地などの比較的新しい進行市街地*が広がっています。
- ・ これらの地域特性をいかすため、今後は、行政、交流、商業、流通業務などの多様な都市機能*を有する地の利をいかしながら、暮らしやすい環境及び都市機能*の維持・形成を図るための土地利用を進める必要があります。
- ・ 本地域の市街地は、平成時代以降に人口集中地区*を形成してきました。今後は今の都市機能*や市街地の規模を維持するため、暮らしやすい市街地・住環境を保全し、市街地の無秩序な拡大を抑制することが必要です。
- ・ 本地域の一級河川関川の東側には北陸自動車道上越インターチェンジがあり、自動車による広域的な移動がしやすい地の利があります。そのため、広域ネットワーク及び上越インターチェンジに近接する充実した環境をいかした土地利用を進める必要があります。
- ・ 本地域の市街化調整区域*には、農地が広がる中に集落が点在しています。今後は、集落及び農業環境の維持を図るため、市街化調整区域*においては、農業環境の維持と暮らし続けられる居住環境のための適正な土地利用が必要です。
- ・ 春日山一帯には、古くからの歴史がある観光・文化資源や森林などがあります。これらをいかした交流・連携の更なる充実に図るため、春日山、春日山城跡、春日神社、林泉寺、春日山神社、埋蔵文化財センター、春日山城跡ものがり館などの観光・文化資源の保全・活用や、地域住民が身近に親しむことができる自然環境の保全が引き続き必要です。
- ・ 春日山駅周辺は、上越市役所、上越文化会館、総合体育館・勤労身体障害者体育館などの多様な機能が集積しています。今後、都市拠点の維持・形成のため、春日山駅周辺における都市機能*の維持・形成に取り組む必要があります。

②道路・交通ネットワークの現状と課題

- ・ 本地域では、既成市街地*や進行市街地*などにおいて安全な道路空間の確保が必要な箇所や未整備の都市計画道路*があります。
- ・ 今後、本地域における地域住民の日常生活や産業活動を支えるため、また本地域と各拠点の交流・移動を支えるため、国道・県道及び北陸自動車道などの安全・安心な道路ネットワークの確保に取り組むことが必要です。
- ・ また、地域内における日常生活を支えるため、地域の実情に配慮して、安全・安心な生活道路*の確保が必要です。
- ・ 地域公共交通*の利用者は減少し、その維持・存続が年々厳しくなっています。今後は、高齢化の進行により地域公共交通*を必要とする市民が増加すると推察されることから、日常生活を支える公共交通の維持・確保が重要となります。
- ・ あわせて、北陸新幹線開業により、今後は来訪者の増加を見据えて、北陸新幹線の上越妙高駅と市内各地を結ぶ公共交通の整備が必要です。

③安全・安心なまちづくりの現状と課題

- ・ 本地域の市街地には、都市計画下水道区域が指定されていますが、未整備の箇所が残っています。今後、良好な住環境の形成を推進するため、上越教育大学地区などの地域西側などにおける公共下水道の整備・普及を進めることが必要です。
- ・ 一級河川*の関川、正善寺川、御館川などについては、河川整備や維持管理などの治水対策が引き続き必要です。
- ・ 災害に強いまちづくりを進めるため、引き続き安全・安心に暮らせる住まいの形成や、災害時の助け合い・避難所の運営を行う自主防災組織*の編成など、防災・減災対策を検討する必要があります。
- ・ 空き家については、適正な維持管理が行われず、そのまま放置すれば倒壊など保安上危険となったり、衛生上有害となる恐れが懸念されるため、その対策が必要です。

④都市環境の保全に向けた現状と課題

- ・ 近年、従来の工場など産業活動に起因する苦情に加えて、住居系の地域で発生する騒音などの苦情や飲食店やサービス業の悪臭苦情など、公害苦情が多様化しています。そのため、生活環境の維持・向上に引き続き取り組む必要があります。

3) 本地域が担う役割

『行政、文化、交流、商業、流通業務、観光、居住などの多様な機能を有する地域』としての役割を担います。

4) 地域づくりの方針

- 行政、文化、交流、暮らしの中心となる多様な機能を有する地域としての役割を果たすため、めりはりのある土地利用や都市拠点の形成などにより、公共施設、交流施設、居住などの機能の維持・集積を目指します。
- 周辺の住環境に配慮しながら、北陸自動車道上越インターチェンジに近接する充実した環境をいかした商業、流通業務などの都市機能*の維持・集積に努めます。
- 春日山城跡、春日神社、林泉寺、春日山神社、埋蔵文化財センター、春日山城跡ものがたり館など、春日山一帯の次世代に引き継ぐべき様々な自然資源や観光・文化資源を活用した市内外との交流・連携を支援します。また、幹線道路*や生活道路*の適正な維持管理及び整備、雨水対策などに取り組みます。

①めりはりのある土地利用の推進

- ・ 住宅を主とする低層低密な住宅地では、ゆとりある良好な住環境の形成に向けた土地利用を推進します。
- ・ 幹線道路*の沿道では、日常生活を支える店舗や教育施設、交流施設などが身近にある暮らしやすい住環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- ・ 主要地方道上越新井線（通称：山麓線）などの主要幹線道路*の沿道では、住環境に配慮した沿道の商業・業務施設などの立地を適正に図れるよう、身近な利便施設や良好な住環境が共存できる市街地環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- ・ 春日山駅周辺では、中高層住宅の誘導やオープンスペース*の確保などにより、本地域の様々な都市機能*をいかした利便性の高い住宅地の形成に向けた土地利用を推進します。
- ・ 流通業務地では、周辺の住環境と共存し、かつ工業地としての利便性を向上させる流通関連施設の誘導を推進します。
- ・ 流通業務地における市街地の無秩序な拡大を抑制するため、大規模商業施設の立地制限に関する土地利用規制の維持に取り組みます。
- ・ 春日山駅周辺及び上越インターチェンジ周辺の商業集積地では、上越地域全体の商業圏域*を支える集客性の高い商業施設や観光・交流施設などの集積を誘導します。
- ・ 特に、上越インターチェンジ周辺においては、広域ネットワークに近接する充実した環境をいかし、引き続き、既存の商業・流通業務機能の維持・集積に努めます。
- ・ 生活利便商業集積地では、隣接する住宅地の生活環境との調和を図りつつ、日常生活に必要な小規模な日用品店舗などの立地を誘導します。

- ・市街地においては、市民が安心して快適に生活できる住環境の形成や、市街地内の低未利用地*の土地利用の促進を図るため、今後の社会経済情勢の変化や地域のニーズに応じた適正な土地利用を検討します。
- ・春日山城跡、春日神社、林泉寺、春日山神社、埋蔵文化財センター、春日山城跡ものがたり館など、春日山一带にある地域住民が身近に親しむことができる自然資源や観光・文化資源の保全と活用により、市内外との交流・連携を支援します。特に、国指定史跡である春日山城跡を含む春日山一带では、関係分野の施策に基づく取組と連携しながら、その保存管理及び活用に取り組みます。
- ・市街化調整区域*においては、都市計画制度の活用を図り、集落の活力の維持・向上に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。
- ・地域住民が身近に親しむことができる様々な自然資源や観光・文化資源の活用などにより、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。

②拠点の形成

- ・行政、文化、交流などの多様な機能の適正な維持・更新を図ります。また、上杉謙信ゆかりの春日山への玄関口であることをいかして交流の促進を図るとともに、暮らしやすい居住環境の維持に取り組みます。
- ・本地域及び上越市全体の生活利便性向上と地域活性化を図るため、本地域と各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。

③道路ネットワークの確保

- ・本地域と各地域を結ぶ国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。
- ・地域内の生活道路*では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。
- ・地域内各地と都市拠点を連絡する幹線道路網及び市街地内の生活道路網の形成を図るため、社会経済情勢の変化や地域での必要性も踏まえて、関係機関と連携しながら都市計画道路*の整備に努めます。
- ・長期にわたって未着手となっている都市計画道路*は、路線の必要性や事業の実現性を検証し、適正な見直しを検討します。

④公共交通ネットワークの確保

- ・将来にわたって市民の日常生活を支え、市内外の人の交流を促進するため、拠点間を結ぶ路線バスの維持など、市内外の人たちが利用しやすい鉄道やバスの地域公共交通網の形成を図り、維持していきます。
- ・鉄道については、利用者のニーズ（移動需要）を踏まえた運行本数やダイヤ設定などを働きかけます。特に、妙高はねうまラインについては、上越妙高駅における北陸新

幹線との乗り換えがスムーズに行えるようにダイヤの設定などへの配慮を働きかけます。

⑤安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

- ・生活環境の改善や河川の水質汚濁防止を図るため、また集中豪雨などに伴う浸水被害を軽減するため、下水道（汚水・雨水）の整備を推進します。
- ・国・県により管理される一級河川*の関川、正善寺川、御館川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川*や雨水幹線*などについても適正な維持管理を推進します。
- ・木造建物の耐震化、克雪住宅*の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路*の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織*の結成及び活動を支援します。
- ・放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適切な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

⑥都市環境の保全

- ・産業活動に起因する騒音などの公害を防止し、生活環境の維持・向上を図るため、周辺と調和した適正な土地利用への見直しを図るなど、必要に応じて都市計画の面から支援します。
- ・また、生活環境の維持・向上、市街地や幹線道路沿道などでの景観の形成、防災面における安全性の向上、二酸化炭素の吸収などの環境負荷低減などのため、関係分野と連携しながら、公園緑地や街路樹などの緑地空間の保全・維持管理を推進します。